



# 南総研だより

1980年 8月

No. 1

## 南総研だより発刊にあたり

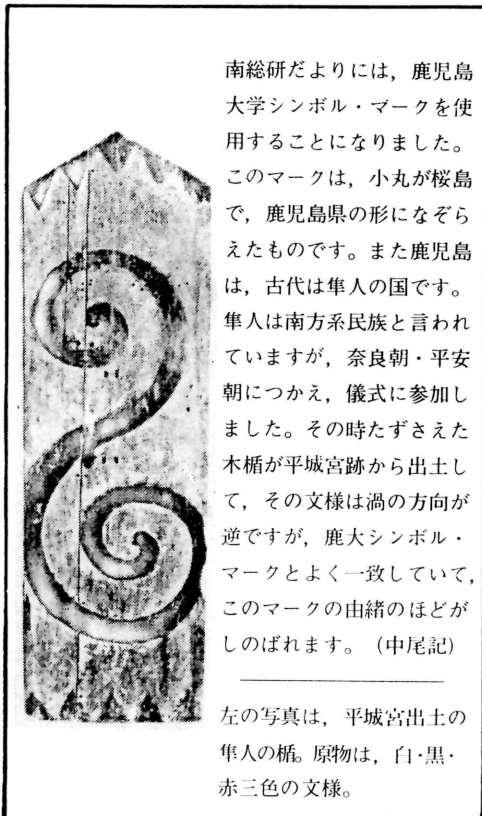
中尾 佐助

鹿児島大学では、多年にわたり各分野から南方地域の各種研究を志向した研究者が多く、その業績も集積しつつある。それを更に一層の発展と総合化のため、学内にセンターの設置が要望されてきた。蟹江松雄学長は就任以来、その実現のために多年努力を続け、学内施設として、昨年11月、教官会議、協議会などの組織を定め、南方地域総合研究センターを発足させた。

このセンターはまだ生まれたばかりで、具体的な活動は全くこれからである。いまのところその力は弱い、多数の協力教官をもち、日本の大学における地域研究の新しい施設として研究活

動を開始しようとしている。そのためには協力教官、学内一般、さらに学外の研究者とも密接な連絡をたもち、協力して研究をすすめる必要上、この南総研だよりを発刊することになった。南総研だよりは年数回発行の予定である。南総研ではこのほか、年二巻の紀要を本年度より出版する。

われわれの目ざす地域は発展途上国である。その地域の自然の研究はまだおくれており、また人間文化、産業などに貢献するためには今後多大の研究が必要である。日本本土の最南端にある鹿児島大学は、そのためにこれから新しい活動を始めようとしている。



南総研だよりには、鹿児島大学シンボル・マークを使用することになりました。このマークは、小丸が桜島で、鹿児島県の形になぞらえたものです。また鹿児島は、古代は隼人の国です。隼人は南方系民族と言われていますが、奈良朝・平安朝につかえ、儀式に参加しました。その時たずさえた木桶が平城宮跡から出土して、その文様は渦の方向が逆ですが、鹿大シンボル・マークとよく一致していて、このマークの由緒のほどがしのべれます。(中尾記)

左の写真は、平城宮出土の隼人の桶。原物は、白・黒・赤三色の文様。

## 昭和55年度 南総研センター事業計画

### 〔I〕 講演会・シンポジウム等の活動

#### 1. 南総研センター創立記念講演会

「現代文明と南方海域」

日 時：9月20日(土) 午後1時～5時

会 場：中央公民館ホール

講 師：中尾 佐助氏 (鹿大教授・南総研センター長)

「照葉樹林文化と鹿児島」

梅棹 忠夫氏 (国立民族学博物館長)

「世界における日本文明」

共催関係：国際交流基金

#### 2. シンポジウム「海域としての東南アジア世界」

「東南アジア史におけるビルマ」

日 時：10月18日(土)・19日(日)

会 場：鹿児島大学

参 加 者：南総研センター教官，東南アジア史学会  
会 員

共催関係：東南アジア史学会

(事務局：京大文学部)

#### 3. 国連大学「水陸相互作用計画調整者会議」

日 時：9月8日(月)～12日(金)

会 場：鹿児島大学

参 加 国：中国，インドネシア，マレーシア，  
フィリピン，オーストリア，日本

参 加 者：上記6ヶ国の研究者，国連大副学長，  
南総研センター教官 (岩切 成郎ほか)

共催関係：国連大学

### 〔II〕 関連調査研究活動

#### 1. 国連大学「水陸相互作用：沿岸地域の資源管理に 関する調査比較研究」

期 間：7月・8月

調査フィールド：石垣島

参 加 者：南総研センター教官 (岩切 成郎ほか)

共 催 関 係：国連大

#### 2. 科研費「フィリピン，セブ・ネグロス島付近，オウ ムガイ自生海域の海洋生態学的調査」

(予備調査)

期 間：8月24日～9月16日

調査フィールド：フィリピン，セブ・ネグロス島

参 加 者：南総研センター教官 (早坂 祥三ほか)

#### 3. 科研費「東南アジア辺地における生物生産体系 と社会構造」調査

期 間：10月27日～1月9日

調査フィールド：インドネシア，チモール島ほか

参 加 者：南総研センター教官 (岩切 成郎ほか)

#### 4. 科研費「東南アジアの農村における果樹を中心 とした植物利用の生態学的研究」

期 間：8月8日～9月4日

調査フィールド：インドネシア・パプアニューギニア

参 加 者：南総研センター教官 (中尾 佐助ほか)

### 〔III〕 研究会活動

#### 1. 「南総研センター」現地調査報告・研究会

発 表 者：南総研センター教官 ほか

会 場：鹿児島大学内

テ ー マ：調査報告，研究発表等

日 時：毎月1回程度

### 〔IV〕 出版活動

#### 1. 南総研だより

形 式：タイプ打ち

内 容：連絡，研究等の彙報

刊行回数：年数回

配 布 先：学 内

#### 2. 「南総研センター」紀要 (仮題)

刊 行：年2冊

形 式：欧文もしくは欧文レジュメ付

## 第1回 南総研センター研究会

昭和55年6月25日 於農学部124号教室

### 演題 「東南アジア・オセアニアの農耕文化論」

中尾 佐助

東南アジアを旅行すると、いたるところで見える風景は水田稲作である。それはタイ、マレーシア、ベトナム、ビルマ、フィリッピン、インドネシアで共通している。しかし東南アジアには畑作地もあり、また山地には焼畑もある。しかし圧倒的な面積は水田稲作地である。この水田稲作地を見ていると、これら地帯の全部にわたって民家が杭上家屋であることに気づいてくる。タイ族では非常な高床の家屋が普通であり、マレーも杭上家屋、ジャワでも同様である。しかし場所によっては土間家屋もある。タイやビルマ北部の焼畑民は土間家屋、ベトナムも土間家屋である。また中国人は華僑として東南アジアに多くの文化的影響をあたえているが、彼等は土間家屋である。インドネシア東部ではハルマヘラ島は水田稲作でなく、焼畑であるが、その家屋は土間である。こうしてみると、東南アジアの水田稲作は杭上家屋と複合していると言えよう。この複合文化をパディ農耕文化と名づけてみよう。このパディ農耕文化は日本の弥生文化と殆んど同時期に展開したもので、その文化複合の内容は両者殆んど一致しており、同一の起源から、東は日本、南は東南アジアに展開したものと考えられる。

インドネシア以東のメラネシア、ミクロネシア、ポリネシアは根栽農耕文化の地域である。根栽農耕文化は中国南部からマレーにいたる地域から民族移動と共に太平洋上に伝播したと、その栽培植物の起源地の関係から推定されている。しかしその始めは多分傘栽培に近い状態で大陸から離れ、それが島の上で発展して、典型的な根栽農耕文化が太平洋の島の上で完成した。種子無しのパノキやヤマイモの高次な品種改良はオセアニアの島の上でおこったのであろう。

## 南総研センター協議会委員

選出母体	所属学部等	氏名	選出母体	所属学部等	氏名
センター長		○中尾 佐助			
センター教官	理学部	早坂 祥三	各学部・教養部	法文学部	平田 好成
	医学部	福島 英雄		教育学部	坂東 義雄
	工学部	武石 泰亮		理学部	長谷 綱男
	農学部	雨宮 淳三		医学部	佐藤 淳夫
	〃	片山 忠夫		歯学部	浦郷 篤史
	水産学部	㊦岩切 成郎		工学部	岡村 俊一
	〃	平田 八郎		農学部	大塚 閨一
	〃	川村 軍蔵		水産学部	柿本 大壺
教養部	石沢 良昭	教養部	田川 日出夫		

※○印は委員長又は議長を示す。

## 南総研センター教官

職名	氏名	専門分野	職名	氏名	専門分野
(法文学部)			助教授	松尾英輔	園芸、造園学 人文地理学
講師	松野周治	アジア地域経済論	〃	西中川 駿	獣医学(家畜解剖学)
(教育学部)			〃	石畑清武	熱帯植物学
教授	田代一男	畜産学, 生理学 生物物理学	講師	林 満	熱帯作物学
(理学部)			助手	串間俊文	果樹及び花卉園芸学
教授	鎌田政明	分析・地球化学	(水産学部)		
〃	早坂祥三	層位学, 古生物学 地史学	教授	柿本大壺	水産学一般, 水産化学
助教授	大塚裕之	層位学, 古脊椎動物学	〃	片山輝久	海洋資源生物化学
(医学部)			〃	岩切成郎	水産経済学 国際漁業論
教授	福島英雄	熱帯医学	助教授	米盛 享	水産学一般
助教授	川畑紀彦	〃	〃	金沢昭夫	水産化学
〃	川 明	内分泌学, 免疫学	〃	税所俊郎	水産生物学
〃	尾辻義人	熱帯医学	〃	平田八郎	水産増殖学
講師	木原大	〃	〃	市川英雄	水産学一般, 商学 農業経済学, 経営学
助手	水上惟文	〃	〃	井上晃男	海洋基礎生産学
〃	又吉盛健	〃	〃	今井健彦	水産学一般
(工学部)			〃	手島新一	水産化学
教授	伊藤行	建築史, 建築意匠	講師	林 征一	水産学, 生物化学
助数授	武石泰亮	電子計測	〃	川村軍蔵	漁法学, 生理学
(農学部)			〃	片岡千賀之	水産経済学
教授	小倉弘司	園芸・造園学	助手	田中淑人	水産生物化学 物質生物化学
〃	工藤寿郎	農業経営学	〃	山崎繁久	水産増殖生理学
〃	永浜伴紀	応用生物化学, 食品栄養 化学, 製造化学	〃	門脇秀策	養殖漁場環境学
〃	小林昭	応用生物化学, 栄養化学	(教養部)		
〃	有隅健一	観賞園芸学, 育種学	教授	荻原弘明	ビルマ史
〃	雨宮淳三	獣医公衆衛生学 家畜衛生学	〃	浦島幸世	鉱床学
〃	品川昭夫	土壌学	〃	田川日出夫	植物生態学
〃	大塚閏一	獣医学, 畜産学 動物形態分類学	助教授	石沢良昭	東南アジア史 古代カンボジア碑刻学
〃	片山忠夫	作物学	〃	西 義郎	チベット・ビルマ言語学
助教授	八尋正樹	熱帯作物学, 蚕糸学 植物生理学(桑)	講師	新田栄治	考古学
〃	富田裕一郎	家畜栄養学	〃	田村克己	東アジア・東南アジア民族学
〃	湯川淳一	応用昆虫学, 生態学 昆虫系統分類学			
〃	藤本滋生	澱粉化学			
〃	田代哲之	家畜外科学 家畜臨床繁殖学			

南総研だより No.1 昭和55年8月25日発行

鹿児島大学南方地域総合研究センター

〒890 鹿児島市郡元一丁目21-24 電話 0992(54)7141 (内線)2053